



有限会社HMT 「あきらめない」精神を支えに、 新天地岩手で独立開業

花巻市にある有限会社HMTは、超精密部品の金型製作業界において業績を飛躍的に伸ばしている会社である。社長をつとめる原正男さんの生まれは佐賀県唐津市。故郷を離れ、ここ岩手で会社を立ち上げたのは、数多くの試練と人との出会いを経験したからだ。「夢をあきらめない」その精神を胸に、日々邁進する原社長に伺った。

いくつもの転機を乗り越えて

人生にはたびたび転機が訪れる。九州出身の原正男さんが、遠く離れた岩手で会社を創業するまでの道のりは、まさにいくつもの転機が重なった結果だった。

最初の転機は15歳の時。プレス工として勤めていた会社で、原さんは作業中に折れた鉄板の破片で重傷を負い、仕事を辞めざるを得なくなった。心機一転、整備工場に勤めるも経営者の世代交代にともない辞めることを決意する。三たび仕事を探すことになった原さんは知り合いの営業マンに誘われて、ドリルなどの切削工具の販売に従事する。その営業先は精密金型や部品などの製造業界。現場を歩くうちに「1,000分の1mmの世界でモノを作る仕事の方に興味を湧いた」原さんは、営業を辞めて研磨技師として7年に渡って技術を磨いた。大きな怪我と会社の世代交代。不運ともいえる2つの転機を体験したことが、結局は原さんに進むべき道を示唆したといえるのかもしれない。

技術者としてキャリアを着実に積んでいた原さんに独立開業の意志が芽生えたのは、生産効率や売上ばかりを重視する会社の経営方針に疑問を感じたからだ。「工場を無人化するより、逆に機械ではできない難しいモノを作っていくことにニーズがあるはずだ」。そう考えていた原さんの目にとまったのが、岩手のある精密金型企業を紹介した新聞記事。技術を修得した従業員の独立を応援するというその会社は、起業家大学一期生が興したベンチャーだった。「技術では絶対負け自信があった。



「起業家大学は、行く度に様々な成功者の逸話が聞けるのがよかった」と原社長。「偶然は必然」失敗すればするほど成功する」など、福島先生の一言一言が、今も心の支えになっている。

この力を試したい」。家族や友人の反対を押し切って、97年、単身岩手に乗り込んだ。

「あきらめない」ことを学んだ 起業家大学

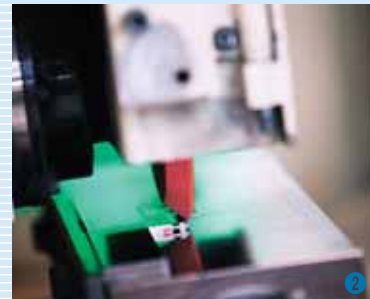
岩手に来た原さんは、97年、98年といわて起業家大学を受講する社長に同行し、99年に正式に受講者になって学んでいる。3度も通った理由は、受講するたびに講師の福島正伸先生から色々な成功者の話を聞くことができたからという。

「成功者の多くは資産や学歴といっ

た何らの背景がないゼロからのスタート。その人々に共通するのが「あきらめない」という姿勢だったんです」。

いくつもの試練を体験してきた原さんにとって、福島先生の一言一言はそのまま自分へのエールになったようだ。「なにより驚いたのは、家族や友人は『お前には社長は無理だ』というなかで、福島先生だけが私の夢を支持してくれたこと。『夢は実現しなければただのまぼろし』という言葉は、今も記憶に残っています」と言葉を続ける。

こうして高い技術力を武器に精神的な支えも見つけて始まった原さんの岩手での挑戦だったが、その後大きな



① 写真の工作機械は、リアモータ駆動3軸のマシニングセンター。製品の鏡面研磨向上をはかるために空冷ラッピング砥石の研究開発をテーマに掲げ、技術力の研鑽にも努めている。
② デジタル機器のコネクターは、今や超マイクロ世界へと突入している。次々と生み出される新製品に対応する応用力と技術力勝負の世界だ。

③ 従業員の平均年齢は29歳。「スタッフの技術が上がればもっとニーズに応えられる」と、原社長は厳しくも的確な技術指導を行う。大手メーカーの技術研修も受け入れている。
④ マイクロスコプやプロファイルプロジェクターも導入し、完成品の仕上がりをマイクロの単位で厳しくチェック。技術力に加え徹底した品質管理体制と製品保証が同社のセールスポイントである。

試練が待ち構えていた。社長のすすめで工場内の機械を2台リースして企業内ベンチャーを果たし、少しずつ取引先が増えてきていた矢先の99年、原さんを受け入れた当の会社が倒産してしまったのだ。

知り合いのほとんどいない岩手、なおかつ自己資金もない中で本当の意味での創業。いくつも立ち上がる壁の前に奮闘する原さんを支え続けたのもまた、大学で福島先生から学んだ「あきらめないこと」そう、起業家精神そのものだったのだ。

高い技術を支えるのは人の手

思いがけない出来事から独立した原さんだったが、99年9月には花巻市起業家支援センターに入居。徐々に取引先を増やしていき、02年には有限会社HMTとして法人化も果たした。HMTとは「Hand Magic Technology」の略。「パソコンやデジタル家電など工業製品はどんどん進化してきましたが、製造現場では20年前と変わらない工作機械でモノを作っています。技術が進んでも製造の基本は手作業など人間の感覚がものをいう職人の世界なんです」と原さんはいう。

HMTが手掛けるのは、携帯電話や

パソコンなど情報化社会を支えるインターフェースのプラスチックコネクター部品をつくる精密金型の製造。精密かつ複雑な形状をしたコネクターを作る金型は、技術者が切削・研磨加工したいくつもの部品を組み合わせて作られる。誤差にして10,000分の5mm以下という世界。想像を超えた高精度が要求されるためにHMTでは高精度の研磨機を備え、工場内の温湿度管理も行うなどモノづくり環境を整備してきた。従業員は7人。全員が未経験者だったが原さんの指導のもと技術を磨き、現在は各人がメーカーからの厳しいニーズに応えている。「今の経常利益は27～30%。この数字をキープしながら、最終的には売り上げ1億円を達成するのが目標です」。原社長は次のビジョンを語る。

新工場建設、 そしてあらたな夢へ

そして今年8月。有限会社HMTでは支援センターと同じテクノパーク内に用地を取得、新工場を建設中である。建物は鉄骨平屋建て、床面積は約二百七十平方メートル。新たにワイヤー放電加工機を1台導入したほか、応接室や社員食堂を備えるなど会社としての機能も充実させた。その新社屋を見ながら、

原さんは「ここからが多分、本当の『経営者』と呼ばれるようになるんじゃないかな」とつぶやいた。

「会社を維持していくのは大変なこと。私自身不安になることも多いのですが、そういう時は成功者の自伝を読み、彼らの『あきらめない』姿勢を確認します。でも、何をどこまでやったら『あきらめない』ことになるのか…。明確な答えはないのかもしれない」。

いくつもの試練をあきらめずに乗り越え続け、起業というひとつの目標を達成した原さん。その頭の中には、次なる目標もすでに描かれているようだ。



会社名 有限会社 HMT
住所 花巻市二枚橋5-75
起業家支援センターB-1
TEL 0198-30-2524
FAX 0198-30-2547
代表 原 正男
業種 超精密プラスチック金型製作

お問い合わせ先 新事業支援課 TEL 019-621-5070 FAX 019-621-5481
URL <http://www.joho-iwate.or.jp/info/sogyo> E-mail joho@joho-iwate.or.jp